

[専門教育科目/看護の統合と発展]

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
災害看護援助論	NSP43_001	必修	1	4	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
伊丹 幸子 他	304	s.itami	月曜日 12:10～13:00		
授業の目的・概要	災害看護論の学びを基に、近年の我が国における大規模災害と山梨県東部地区の災害想定を理解し、発災後の災害サイクルに応じた看護の果たす役割と看護活動の基礎となる知識・技術について学習することを目的とする。また、減災・防災のための災害発生前の看護活動について教授する。さらに、災害発生時における避難所開設や運営等発災直後の傷病者受け入れ等の実践的な知識・技術を同時双方向型授業や遠隔授業で学ぶ。				
学習上の助言	授業内容に関する質問は、授業中およびリアクションペーパー、オフィスアワーにて受け付けている。積極的に質問して疑問を解決し、理解を深めてほしい。				
教科書	看護の統合と実践② 災害看護学/編:小井土雄一、石井美恵子/メヂカルフレンド社/2020				
参考書	災害看護学・国際看護学/編:日本赤十字社事業局看護部/医学書院/2019				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	人体構造機能学、病態生理学、検査、疾病治療学に関する医学的基礎知識を統合し、災害発生時の被災者の心身に及ぼす影響を論理的に理解することができる。	NS(1)			
②	発災後の災害サイクルに応じた被災者の生活の場で求められる看護知識、技術について理解することができる。	NS(1)、(2)			
③	山梨県東部の災害の特徴を理解し、被害想定と自らが行動可能な対応を説明できる。	NS(1)、(4)、(5)			
④	災害発生前における減災・防災のための看護活動について理解することができる。	NS(1)、(5)			
⑤	災害時における要配慮者の健康問題とその対応法について理解することができる。	NS(1)、(2)、(4)、(5)			
⑥	発災後の被災者の「生きる」を支えるために必要となる実践的な知識と技術を習得することができる。	NS(1)、(2)、(4)、(5)			
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	災害発生時の現状と今日の課題について	対面授業 演習	国内外の災害、特に山梨県内の災害の情報を新聞等から得ておく。	2	
2					
3	日本における災害想定 富士東部地区における災害想定	対面授業 演習	富士東部地区の地域防災計画等から災害想定の情報を得ておく。	1	
4	災害発生前の看護活動	対面授業 演習	発災前における災害看護活動について授業配布資料と教科書等で再度確認する。	1	
5	災害時の看護活動①	同時双方向型授業	発災後における各フェーズの災害看護活動について課題とし、授業配布資料と教科書等で再確認する。	1	
6	災害時の看護活動②				
7	災害時の看護活動③				
8	災害時の看護活動④				
9	災害時の看護活動⑤				
10	災害時の看護活動⑥				
11	演習①トリアージ	対面授業・演習	災害看護論で学習した避難所、パブリックヘルスについて授業資料と教科書等で再度確認する。	2	
12	演習②トリアージ				
13	演習③HUG	対面授業・演習	HUGの知識と技術について教科書等で調べ、事前学習をしておく。	2	
14	演習④HUG				
15	まとめ	対面授業		1	
試	定期試験・レポート提出				

[専門教育科目/看護の統合と発展]

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		60	20	0	10	10	100
総合力指標	知識・技術力	20	0	0	0	0	20
	思考・推論・創造する力	10	10	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	10	0	0	10	10	30
問題を発見・解決する力		20	10	0	0	0	30
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	筆記試験とする。看護師国家試験を同じレベルの試験とする。				メールで回答の解説を送付する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
レポート	①	✓	授業の終了時にリアクションペーパーを配布する。災害看護に必要な看護技術演習への事前・事後学習を含む、取り組みの姿勢・意欲を踏まえ総合的にレポートを評価する。				対面授業の最終日に総括した内容の講評や解説、説明を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①	✓	記録物等適切な収集・整理ができる。				最終対面授業で説明する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
その他	①		出席日数と日々の受講態度等を総合的に評価する。				問題が生じた場合は、個別に面接を行う。
	②						
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
担当教員：①山崎 洋子、②伊丹 幸子、③堀口 まり子 教員の実務経験 ：①保健師として保健所、市町村に10年勤務、また大学病院の医療連携室での退院調整や療養生活相談等に勤務あり。②35年の県および市町村の行政保健師経験があり、災害時の計画の作成及び対応や数回の県外災害派遣を経験している。③看護師として、病院において災害看護を経験 実践的授業の内容 ：保健所・市町村における行政保健師活動、災害援助活動および訪問看護活動等の実務経験を元にして、内容を構築し、災害看護について理解を深める。教員の経験からさまざまな事例を取り上げ、教科書と比較しながら学習する。 ・毎回対面授業に出席し、積極的な態度で授業に臨むことを重んじる。原則として理由のない欠席はしないよう心がけること。 ・学生の理解度に応じ、対面授業の速度や順番を調整する可能性がある。 ・大学から示されている感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は面接授業の参加は認めない。 ・Teamsを使った同双方向型授業も実施するため、通信容量無制限のWifi環境を推奨する。 ・今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢により、再度シラバス内容が変更となる可能性がある							